



年金生活者支援給付金制度について

年金生活者支援給付金は、公的年金等の収入やその他の所得額が一定基準額以下の、年金受給者の生活を支援するために、年金に上乗せして支給されるものです。

受け取りには請求書の提出が必要です。ご案内や事務手続きは、日本年金機構（年金事務所）が実施します。

対象となる方

■老齢基礎年金を受給している方

以下の要件をすべて満たしている必要があります

- ・65歳以上である
- ・世帯員全員が市町村民税が非課税となっている
- ・年金収入額とその他所得額の合計が約88万円以下である

■障害基礎年金・遺族基礎年金を受給している方

以下の要件を満たしている必要があります

- ・前年の所得額が約472万円以下である



請求の手続き

①新たに年金生活者支援給付金をお受け取りいただける方

お受け取りの対象になる方には、日本年金機構から9月初旬頃から、**請求可能な旨のお知らせを送付します。**

同封のはがき（年金生活者支援給付金請求書）に記入し提出してください。

令和7年1月6日までに請求手続きが完了しますと、

令和6年10月分からさかのぼって受け取ることができます。

②年金を受給しはじめる方

年金の請求手続きと併せて年金事務所または市区町村で請求手続きをしてください。

**請求手続きは
お早めに！**

日本年金機構や厚生労働省を装った不審な電話や案内にご注意ください。

日本年金機構や厚生労働省から、電話でお客様の家族構成や金融機関の口座番号・暗証番号をお聞きしたり、手数料などの金銭を求めることはありません。

年金生活者支援給付金のご請求でお困りになった際は、お電話ください。

『給付金専用ダイヤル』 0570-05-4092（ナビダイヤル）



年金給付金

検索

令和5年度中山間地域等直接支払交付金の取組みについて

◆制度の概要

耕作放棄地の増加などにより水源かん養機能・洪水防止機能など、農業農村の有する多面的機能の低下が懸念されている中山間地域などにおいて、担い手の育成などによる農業生産の維持を通じて、多面的機能を確保する観点から、農業生産条件の不利を補正する目的で中山間地域等直接支払交付金を交付する制度です。令和2年度から第5期目の対策が講じられています。

◆集落協定の概要

- ①集落名：中頓別集落（代表者 姉齒義宣）
- ②協定参加者数：40経営体（農業者39人、農地所有適格法人1組織）
- ③協定農用地面積：2,678ha
- ④農業生産活動等に要する経費：40,164千円
- ⑤共同取組活動の概要

令和5年度は、農業生産活動等の体制整備のため、対象農地の確認のほか、集落の共同取組活動の一つとしての作業機械「自走式ハーベスター」を導入しました。また、食育活動の推進を目的として、学校給食（なかとん牛乳）への助成等を実施しました。

取組み内容・交付金使途	金 額
1. 集落の管理体制（集落役員などへの報酬、事務委託費など）	722千円
2. 農業生産活動 （1）農用地に関する事項（かぼちゃ種配布、学校給食助成）	102千円
3. 農業生産活動の体制整備 （1）農業生産活動などの継続に向けた活動 （対象農地の圃場データ管理経費、自走式ハーベスターの導入等）	13,688千円
4. その他（事務費、繰越金等）	1,554千円
計	16,066千円

◆協定農用地の基準別面積及び交付額

- ・草地比率の高い草地の基準単価
（1,500円×10アール）で算定されています。
- ・交付対象面積：2,678ha
- ・交付額：40,164千円
財源内訳－国費（1/2）20,082千円、
道費（1/4）10,041千円、
町費（1/4）10,041千円

◆交付金の使用方法

- ・共同取組活動に充当 16,066千円
- ・協定参加者へ配分 24,098千円



作業機械「自走式ハーベスター」の作業風景

お問い合わせ 産業課産業グループ (01634-8-7662)



第4号 第2回幸福度アンケート調査の分析状況②について

先月号に続き、幸福度の変化の分析内容についてお知らせします。

R2調査とR5調査の健康状態を比較すると、両調査とも約6割が「健康」と回答いただいたが、R2「健康」からR5「健康ではない」に変化した方は28人で全体の15.9%でした。

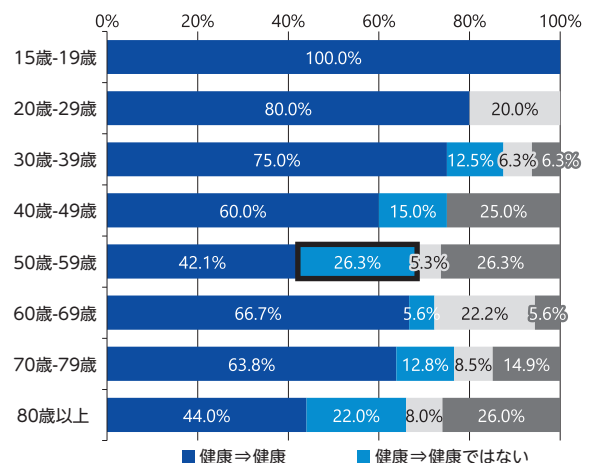
この健康状態の変化に、幸福度の変化の状況をみると、幸福度が低下した人は「健康⇒健康ではない」割合が30.0%と幸福度に変化がない人や上昇した人に比べ大幅に高く、R5調査の健康の割合は低くなっています。また、この変化した方を年代別に見ると50歳代がほかの年代よりも26.3%と比較的高い状況でした。

このことから、「幸福度の判断する項目（先月号に掲載）」を踏まえると、健康状態の変化が幸福度に作用することが伺えました。

■健康状態の変化別・幸福度の変化（n=176）

R2調査 ↓ R5調査		健康状態の変化 R2⇒R5				合 計
		健康 ↓ 健康	健康ではない ↓ 健康	健康 ↓ 健康ではない	健康ではない ↓ 健康ではない	
幸福度の変化	幸福度の変化はない	41 62.1%	4 6.1%	8 12.1%	13 19.7%	66 100.0%
	幸福度が上昇した	34 68.0%	7 14.0%	2 4.0%	7 14.0%	50 100.0%
	幸福度が低下した	26 43.3%	4 6.7%	18 30.0%	12 20.0%	60 100.0%
合 計		101 57.4%	15 8.5%	28 15.9%	32 18.2%	176 100.0%

■年代別の健康状態の変化（n=176）



健康状態について、R2調査と比較すると、「1. 健康だと思う」の割合は6.6ポイント減少していました。健康だと思う理由では、「2. 美味しく飲食できる」の割合が66.7%と最も高く、次いで、「1. 心身の状況がよい」が36.8%、「3. 十分な睡眠がとれる」が33.3%でした。

一方で、健康ではないと思う理由は、「5. 運動不足」の割合が42.6%と最も高く、次いで、「1. 心身の状況がよい」が41.0%、「6. 不安や悩みがある」が29.5%という集計結果でした。

①「健康だと思う」理由

(複数回答)

	件数	%
2. 美味しく飲食できる	78	66.7%
1. 心身の状況がよい	43	36.8%
3. 十分な睡眠がとれる	39	33.3%
4. 規則正しい生活	28	23.9%
7. 居住環境	19	16.2%

②「健康ではないと思う」理由

(複数回答)

	件数	%
5. 運動不足	26	42.6%
1. 心身の状況がよい	25	41.0%
6. 不安や悩みがある	18	29.5%
3. 睡眠がとれない	10	16.4%
4. 不規則な生活	6	9.8%